

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会 議 名   | 令和 8 年度第 1 回港区消防団運営委員会                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 開 催 日 時 | 令和 8 年 7 月 30 日（木曜日）午前 10 時から 11 時まで                                                                                                                                                                                                                                      |
| 開 催 場 所 | 区役所 9 階 914-915 会議室                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 委 員     | <p>（出席者）16 名<br/> 清家委員長、宮崎委員、出野委員、伊関委員、白石委員、丸山委員、七戸委員、池田委員、村上委員、鈴木委員、石井委員、布施委員、内田委員、六本木委員、岩澤委員、渡嘉敷委員</p> <p>（欠席者）<br/> 菅野委員</p>                                                                                                                                           |
| 事 務 局   | 港区：防災危機管理室防災危機対応力強化担当<br>区内消防署：赤坂消防署（幹事署）、芝消防署、麻布消防署、高輪消防署                                                                                                                                                                                                                |
| 傍 聴 者   | なし                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 会 議 次 第 | 1 開会<br>2 新委員紹介<br>3 審議事項<br>諮問「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」における答申（案）の審議<br>4 閉会                                                                                                                                                                        |
| 配 付 資 料 | <p>[席上配付]</p> ○港区消防団運営委員会委員名簿<br>○座席表<br>○消防団運営員会の全体スケジュール<br>○答申（案）<br>・諮問及び検討事項等（資料 1－1、1－2）<br>・諮問に対する答申（案）概要（資料 2－1、2－2）<br>・消防団員の活動環境向上と負担軽減策に関するアンケート（別紙）<br>・参考資料 1：諮問事項<br>・参考資料 2：新たな特別区消防団点検の試行団の追加指定について（東京消防庁）<br>・参考資料 3：令和 7 年 1 月 消防団員の確保に向けたマニュアル（総務省消防庁） |

| 会議の結果及び主要な発言 |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (発言者)        | <p>1 開会</p> <p>2 新委員紹介</p> <p>3 審議事項</p> <p>諮問「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」における答申（案）について</p>                                                                                                                                                                   |
| 事務局          | (資料 1－1、1－2、2－1、2－2 について説明)                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 丸山委員         | 答申案は、消防団へのアンケート結果を丁寧に反映しており、内容も充実していて評価できる。その上で、新たな消防団点検の具体的な内容について確認したい。                                                                                                                                                                                                        |
| 事務局          | 昨年度行われた新たな消防団点検は、それぞれ異なっている。小石川消防団では、最大震度 7 の地震による建物倒壊での要救助者の発生を想定し、出場、救助活動、応急救護、火災対応を組み合わせた総合訓練を実施した。丸の内消防団では、防火服の着装から放水、傷者搬送・創傷措置、現場本部の設営までを行った。また、赤羽消防団では、操法大会と新たな消防団点検を統合し、震災時の救助活動と火災対応を同時並行で実施する技能確認が行われた。                                                                 |
| 丸山委員         | <p>いま説明いただいた事例もうまく取り込んで試行に臨んでいただきたい。</p> <p>町会、自治会や、学校コミュニティ等とのさらなる連携強化としての消防団トライアルは 18 歳以上を想定した取組と思われるが、将来の入団促進には、子どもの頃から消防団を身近に感じてもらうことも重要であり、既存の消防少年団の活動をさらに充実させ、全国大会で行われているような競技性や楽しさのある取組を港区内でも展開することで、子どもたちの関心を高め、将来的な消防団加入につなげられるのではないかと。答申にも、消防少年団の取組の拡充や評価を盛り込めないか。</p> |
| 事務局          | 消防少年団の活動を、将来の消防団入団促進につなげていくという点は検討し、答申へ反映する。                                                                                                                                                                                                                                     |
| 丸山委員         | 在留外国人・外国人観光客への防災指導については、やさしい日本語ハンドブックの活用に加え、港区国際交流協会など、在留外国人と交流のある既存団体との連携を強化することも有効ではないか。例えば、AED の実演等を通じて消防団活動や災害時の対応を周知することで、外国人住民等との関係強化につながると考えるが、見解を伺いたい。                                                                                                                   |
| 事務局          | 既存の好事例や活用可能なツールを参考にしながら、答申に反映できるよう検討する。                                                                                                                                                                                                                                          |
| 池田委員         | アプリを作成する場合、オール東京として答申に盛り込むものなのか、各自治体で個別                                                                                                                                                                                                                                          |

|      |                                                                                                                                                                |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>に作成するものなのか確認したい。</p>                                                                                                                                        |
| 事務局  | <p>アプリについては、オール東京で作っていくものと認識している。既に導入している地方消防団の事例を参考にし、優れた点を取り入れながら検討していく。</p>                                                                                 |
| 池田委員 | <p>消防団活動における連絡や出場記録等の効率化の観点から、アプリの活用には有効性があると考ええる。特に、大震災発生時におけるアプリの活用方法について、GPS 機能や通信遮断時にも一部機能を利用できる仕組みなどを含め、災害時の連絡手段としての活用を検討していただきたい。</p>                    |
| 事務局  | <p>震災時にも活用できるアプリの構築に向けて検討していく。</p>                                                                                                                             |
| 白石委員 | <p>消防団の地域特性に応じた訓練内容について、港区では世帯の9割がマンションに居住し、各地域には高層マンションもあることから、住宅地という大きな区分だけでなく、建物の階数や構造に応じた活動方法を想定し、より具体的な訓練内容に落とし込むことも必要ではないか。</p>                          |
| 事務局  | <p>マンション対応については、空気呼吸器がある消防職員とは異なり、火災時に消防団が建物内部で活動することは難しく、主に支援活動が想定される。救助活動を含めた具体的な対応までは検討が進んでいないため、将来的にマンションの高さや構造に応じた活動方法を含めて検討していく。</p>                     |
| 白石委員 | <p>熊本地震でも大きな被害があり、商業施設や工場、高層ビルなど、想定していなかった場所で災害が発生する場合がある。消防団員が現場に駆けつけた際、何をするべきか分からず、邪魔にならないようにするだけではなく、あらかじめ様々な想定を行い、どのような支援や活動を行うのかを見据えて、早めに取り組んでいただきたい。</p> |
| 事務局  | <p>ご意見を踏まえ、その方向に向けて整備を進めていく。</p>                                                                                                                               |
| 宮崎委員 | <p>消防団ポンプ操法大会の採点について、団員が次年度に向けてどこを改善すべきか分かるよう、具体的な指摘やフィードバックを受けられる仕組みがあれば、団員のモチベーション向上につながるのではないかと。</p>                                                        |
| 事務局  | <p>ご意見の点も含め、全体的な見直しを検討していく。</p>                                                                                                                                |
| 布施委員 | <p>実災害の教訓を生かした訓練内容の見直しについて、港区の特性から、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の教訓のうち、どのような場面を想定しているのか。また、段階的なブラッシュアップとして、具体的にどのような取組を考えているのか伺いたい。</p>                                     |
| 事務局  | <p>過去の災害については、阪神・淡路大震災や東日本大震災に限定するものではない。現時点では実戦的な訓練が十分にできているとは言えず、震災発生時に消防団が対応で</p>                                                                           |

|      |                                                                                                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>きることも限られるため、その辺りから段階的に進めていく。</p> <p>団本部の動きや参集後の活動、被災状況に応じた参集の可否などを見直し、地域の事情を考慮しながら、できるところから段階的に訓練を進めていく。</p>                                                                   |
| 布施委員 | <p>過去の災害の教訓を訓練に生かすためには、訓練前に当時の映像等を活用し、どのような教訓があり、なぜその活動が必要なのかを事前に学ぶことが重要であるため、検討していただきたい。また、第一消防方面内の方面訓練所が現在なくなっている中で、「方面訓練場などの有効活用」として、どの訓練場を想定しているのか確認したい。</p>                  |
| 事務局  | <p>一方面訓練場は現在整備中であり、現時点では一方面内に訓練場がないため、近隣の方面訓練場を活用していただくことを想定している。赤坂であれば三方面訓練場、高輪であれば二方面訓練場など、使いやすい訓練場を活用していただきたい。また、過去の災害に関する動画等を活用し、教訓を学んだ上で訓練につなげる取組について、答申への記載を検討する。</p>       |
| 委員長  | <p>諮問「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」における答申（案）については、本委員会での審議内容を踏まえ、記載内容の修正、表現の再確認及び具体例の記載の検討を事務局にて行う。修正後の答申（案）については、次回の本委員会において確認し、最終答申を決定することとする。</p> <p>4 閉会</p> |